

5. 海外事例視察

(1) 海外事例視察の概要

1) 視察地選定の考え方

a. 選定にあたって

サッカーが生活・文化・経済の一部或いは多くの部分を占め、現代の集客・経済活動・様々な社会機能の拠点として位置づけられている事例（地域・国）を中心に視察地選定にあたった。

b. 地域・国

上記コンセプトより今回の事例視察地については世界でもトップレベルのクラブチームを各国共に擁し、各々の国において歴史と文化、経済等の源泉としてサッカーが根付いているヨーロッパ地域のスタジアムを参考とすることとした。

その中でも

- ①サッカーの歴史・文化が根付き、そのスタジアムが地域の拠点となっている
- ②スタジアムが多機能化され、経済活動の拠点となっている
- ③最新のコンセプト、機能を装備している

という観点より、ロンドン(イングランド)・リール(フランス)・バーゼル(スイス)・デュッセルドルフ(ドイツ)の4カ国・地域のスタジアムの7事例を選定した。

c. スタジアムの機能について

スタジアム視察においては、機能について大きく以下の3つの観点に分類し、その特徴を持つスタジアムを選定した。

機能①【優れた集客装置型】…スタジアムが「劇場」と化し、サッカー観戦の観点で優れた集客力、機能を持つ。

機能②【多機能型】…スタジアム自体がサッカー以外の用途にも使用可能な機能を持つ。

機能③【複合施設型】…スタジアムに様々な機能(施設)が併設され、集客・収益力を高めている。

優れた集客装置	多機能型	複合施設
◇クレイヴン・コテージ(イングランド ロンドン)	◇グラン・スタッド・メトロポール(フランス リール)	◇リコーアリーナ(イングランド コヴェントリー)
◇シュタディオン・イム・ボルシア・パーク(ドイツ メンヘングラードバッハ)	◇ヴェルティンス・アレナ(旧名:アレナ・アウフシャルケ ドイツ シャルケ)	◇ザンクト・ヤコブ・パーク(スイス バーゼル)
		◇バイ・アレナ(ドイツ レバークーゼン)

d. 訪問先（ヒアリング対象）

訪問先（ヒアリング対象）については、

- ① サッカースタジアム本来の機能
- ② スタジアム及び併設施設の利活用実態
- ③ 地域における役割
- ④ 収支構造

などの観点を

- ◆ 所有者・管理者
- ◆ 使用者（クラブ）
- ◆ スタジアムビジネス関連企業

のそれぞれの立場から説明を受ける必要があり、各国関係者のアポイントを取りヒアリング調査を実施した。

第一章 計画条件の整理

2) スケジュール

海外事例視察 イギリス・フランス・スイス・ドイツ泊8日(1泊東京前泊)案

2011/12/10

日付	都市	交通	時間	人数	行程	食事
1 12/12(月)	神楽(那覇)発 東京(羽田)着	JL914	14:40 16:45	7+1TC	羽田着後、各自で品川プリンスホテルへ移動	夕:×
2 12/13(火)	品川駅発 成田空港第2ビル着 東京(成田)発 ロンドン(ヒースロー)着	NEX13 JL401 専用車(ガイド)	8:19 9:25	7+1TC	品川ホテルから成田空港へ移動	朝:ホテル
			11:45 15:25	7+1TC	専用車でホテルへ	昼:橋内
3 12/14(水)	ロンドン ロンドン	地下鉄・列車 (ms手配) 地下鉄・列車 (ms手配) 専用車(ガイド)	8:15 9:23 10:22	8+1TC+1LJ	ロンドン(8+1) Copthorne Tara泊 ハイスドリートケンジントン駅~(ライクリア乗換)~ユーストン駅コヴェントリー駅へ(山中氏台乗・同行) ユーストン駅~コヴェントリー駅 コヴェントリー駅着後、タクシー2台に分乗しスタジアムへ移動	朝:ホテル
			11:00	8+1TC+1LJ	リコーアリーナ: ヒアリング・MTG (通訳・コーディネーター 山中氏) 【集合施設】 昼食	夕: レストラン Cafe Rouge Lancer Square (徒歩圏内フレンチ) (8+1TC+2LJ=11)
			13:00		列車にてロンドン(ユーストン駅)へ ※列車時間変更(既存払い戻しなし・現払い)	昼: アリーナ SINGERS (9+1TC+1LJ=11)
			14:51 15:54 15:00		O2アリーナ 【多機能型】 → 市内SSに変更	
			17:30 18:30	8+1TC+1LJ	市内見学後、一度ホテルへ、その後簡単な夕食を取りスタジアムへ(地下鉄利用)	
4 12/15(木)	東京(羽田)発 パリ(ド・ゴール)着 パリ(ド・ゴール)発 リール着 ロンドン(Sレインクス駅)発 ユースター リール着 パリ	JL041 TGV 専用車(ガイド) 専用車(ガイド) 専用車(ガイド)	1:30 6:20	2+0TC 2+0TC	*別行動②名(神谷課長様、榊様) ※JL924 H 140EC OKAHND 2 1955 2200 *CDGにてガイド出迎え、TGVにてリール駅まで同行お送り	
			8:04 10:26	10+1TC 10+1TC	駅へ(ハイスドリートケンジントン駅~Sレインクス駅) *リールにて別行動②名合流(神谷課長様、榊様)	朝:ホテル
			10:30	10+1TC+1LJ	*リールにて現地在住栗木様1名追加(CDG空港09:07 リール着:09:57) 専用車で駅からスタジアムへ移動	昼: レストラン Brasserie La Flore (10+1TC+3LJ=14)
			11:00	10+1TC+1LJ	ル・グラン・スタッド・ド・トロボール (通訳・コーディネーター 栗木氏) 【多機能型】 スタジアム視察 所有者、管理・運営者ミーティング (昼食@スタジアム近辺レストラン)	夕: レストラン waly (10+1TC=11)
			17:00 18:00 20:00	10+1TC 10+1TC 10+1TC	訪問後、専用車でパリのホテルへ (栗木様離団 リール:17:02→CDG空港17:53) パリ(10+1) Pullman Paris Rive Gauche泊 *現地在住1名不泊	
5 12/16(金)	パリ(リヨン駅)発 バーゼル着 バーゼル	専用車(ガイド) TGV 専用車(ガイド)	8:23 11:26	10+1TC 10+1TC 10+1TC+1LJ	チェックアウト後、リヨン駅へ バーゼルに向け列車に乗車 栗木MR バーゼル駅で合流(CDG空港:08:40/バーゼル着:09:45)	朝:ホテル
			11:30		駅の近くで昼食	
			14:00	10+1TC+1LJ	ザンクト・ヤコブ・バルク (通訳・コーディネーター 栗木氏) 【集合施設】 スタジアム視察 所有者、管理・運営者ミーティング	昼: Le Train Bleu Le Train Bleu (10+1TC+1LJ=12)
17:00		視察終了後、ホテルへ	夕食: レストラン Restaurant Altes Wartek (11+1TC+2LJ=14)			
18:00 20:00		18:00 20:00		夕食: 市内レストランにて(ホテルから100m) 夕食後、徒歩にてホテルへ(現地LJ) 両部氏合流		
6 12/17(土)	バーセル発 デュッセルドルフ着 レーパーケーゼン デュッセルドルフ	専用車(ガイド) 列車 専用車(ガイド)	6:16	10+1TC 10+1TC	*現地在住KURIKI様1名離団(バーゼル空港:13:30 CDG空港:14:40着) (マンハイムにて乗り換え)	朝:ホテル
			10:31		着後、市内で昼食(荷物はホテルへ)	
			11:00	10+1TC	スタジアム建設関連 HPP社訪問 (通訳 内藤ms)	昼: 現地にておにぎり購入
			15:30		バイ・アリーナ(レーパーケーゼン) 見学 【集合施設】	
			18:30		15:30 レパーケーゼンvsニュルンベルク 観戦 試合終了後、ホテルへ	夕: 自由食
7 12/18(日)	デュッセルドルフ メンエングラットバウハ デュッセルドルフ	専用車(ガイド)	9:30 10:30 13:00	10+1TC	デュッセルドルフ(10+1) Nikko Hotel泊	
			14:00		バイ・アリーナ(レーパーケーゼン) スタジアム視察 (通訳 クラウディアms) レーパーケーゼンチームよりスタジアム案内	朝:ホテル
			15:30		スタジアム見学終了後、一度ホテルへ	昼: 自由食
			17:00		シュタディオン・イム・ポルシア・バルク 17:30 メンエングラットバウハvs. マインツ観戦	夕: ホテル近辺和食 中華
			20:30		試合観戦後、夕食	
8 12/19(月)	デュッセルドルフ デュッセルドルフ	専用車(ガイド)	9:45 10:45	8+1TC	デュッセルドルフ(10+1) Nikko Hotel泊 アレナ・アウフ・ゼンケル(通訳 クラウディアms) ゼルケルチームよりスタジアム案内	朝:ホテル
			13:30		ホテル着	昼: 自由食
			15:30	8+1TC	JALバスにてフランクフルト空港へ	
9 12/20(月)	フランクフルト発 東京(成田)着 東京(成田)発 神楽(那覇)着	JL408 JL3095	18:00	8+1TC	フランクフルト空港着	機中泊
			20:25	8+1TC		
			15:55 19:25 22:45	8+1TC 8+1TC		

(2) イングランドのサッカー事情

イングランドはサッカー発祥の地として、サッカーが盛んであり、多くの人々が親しんでいる。これらは移動中の車窓から確認しただけでも、多くのピッチが存在し、そのどれもが複数面を有すると共に、芝の管理も行き届いたものであった。

イングランドには多くのクラブチームがあるが、その多くは19世紀に設立された歴史あるもので、また、どれもが地域の住民の誇りとして親しまれている。

また、1部リーグであるプレミアリーグは世界のビッグクラブが多く、世界中から有望な選手が集まると共に、海外でテレビ放映も行われ、世界中から注目を集めている。

(3) リコーアリーナ(イングランド)

1) クラブチームの概要

リコーアリーナをホームとするコヴェントリー・シティFCは、かつての名門クラブであり、19世紀に設立した歴史あるクラブであるが、同じ時期に設立したクラブの多いイングランドにあっては一般的なクラブである。

かつてはプレミアリーグに属していたが、2000年代に入って低迷し、現在は2部リーグにあたるフットボールリーグ・チャンピオンシップに属している。

2) リコーアリーナの概要

リコーアリーナは、市の再開発事業の一環として事業化され、再開発事業全体のシンボルとなっている。

施設の特徴としては、リコーアリーナの名称が示すとおり、日本企業であるリコーが命名権を取得していること、多目的複合型として、スタジアム以外に大小のホールやホテル、カジノ等が一体となって整備されていることなどが挙げられる。

スタジアムとしては、32,000人収容で、全席個室、これらすべてを覆う屋根など、ヨーロッパのスタジアムとしては標準的な機能を有している。

施設の運営はカジノなどのテナント収入や各ホール、会議室などのレンタル事業が主な収入源であり、運営会社はサッカースタジアムもテナントの一つと認識している。

現在は、リコーアリーナがサッカースタジアムとして認識されていることで、利用の幅が広がっておらず、今後は、サッカースタジアムのイメージから脱却し、コンベンション施設として、認識されたいと営業方針の転換を図っているとのことであった。



リコーアリーナの外観



フィールドとスタンド

第一章 計画条件の整理

3) 各部の様子

a. スタジアム機能

サッカー専用であること、32,000人収容の観客席やそのすべてが個席であること、観客席のほとんどを覆う屋根等、サッカースタジアムとしての機能、グレードはヨーロッパのスタジアムとしては一般的である。

芝生面はタッチライン・バックラインから約2mの範囲で、その周囲には弾性舗装が約5mの幅員で設置されている。

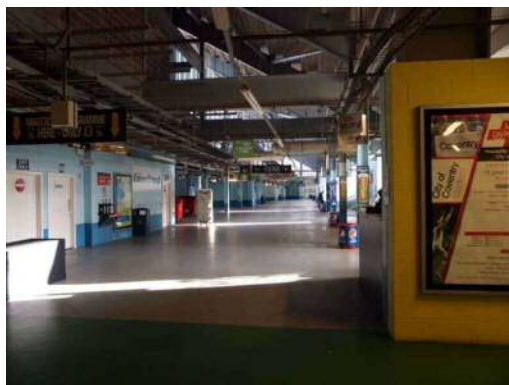
観客席とフィールドの間には50cm程度の高低差があり、その間は鉄柵によって区切られている。

一般の観客は、入場ゲートからスタンド下のコンコースに入場することになる。コンコースはスタジアム全周を周れるようになっていて、売店やトイレが配置されている。利用者が理解しやすいように、観客席側は売店、外側はトイレと決めて配置している。スポンサーにはカールスバーグが名を連ねているため、場内で販売されるビールは全て同社製である。

ゲートのシステムも一般的なヨーロッパのスタジアム同等であり、狭いゲートで入場者を絞ることで、セキュリティをやすくし、退場の際は隣にある大型の扉を開けることで短時間に大量の観客が退場できるようになっている。



観客席とフィールドの関係



コンコースの様子



一般観客用ゲート

VIPと選手、関係者は同じ入口を利用するが、これは後述するジャガーホールと同じ出入口であり、駐車場も専用の区画を利用する。

関係者・選手関係諸室は一般的であるが、ロッカー室とは別に選手用ラウンジがあり、試合前にリラックスでき、また、選手の家族が入ることもできる。

ロッカールーム、シャワー室、マッサージ室は、ホーム、アウェイ共に品質に差はないが、アウェイ側は、クラブのエンブレムがないなどシンプルな作りとなっている。

VIPルームについても、飲食のできる大空間がグレードによって複数あり、また、企業用の個室があることなど、一般的であるが、後述するホテルと兼用になっている点が、本施設の特徴となっている。



欧米では一般的な木製のロッカールーム



一般的なつくりの記者席



記者室には休憩コーナーがある



家族も利用できる選手休憩室

b. 多目的利用・複合利用

〔フィールドの多目的利用〕

リコーアリーナでは、フィールドをコンサート等に利用しているが、実際には8月から翌5月までの、シーズン中は利用できないため日程が合わず、年1～2回の利用しかされていない。また、32,000人収容のスタジアムは、フィールドに観客を入れると40,000人収容となり、イングランドでこの人数を集めることのできるアーティストは限定的であることから、利用が限定されると言われている。

〔各種ホール〕

施設内には様々な規模のホールが整備され、様々な用途で使用されている。この中でジャガーホールは6,000㎡と最も大きく、立ち見で10,000人、メッセ利用で5,000～7,000名収容で、規模が適度で、屋根付の空間であることから、使用率が最も高い。利用内容に応じてパーティションで区切って2,000㎡と4,000㎡のホールに分けて利用する事も可能であり、メッセや大企業の会議などの用途で平日は常に利用されており、コンサートも年に1～2回ある。

他にホール1～6と呼ばれる中小規模のホールやジャガークラブと呼ばれる会議室などがあり、様々な用途に対応可能である。

また、イーオンラウンジやヨークシャーバンクラウンジなどは、試合の際にVIP・ビジネスラウンジとして使われ、試合以外の日はパーティー会場等で貸し出されている。これらの各施設にはすべてネーミングライツが導入され、地元企業名がついている。



ジャガーホールの入口



試合の際はVIPラウンジとして使用されているイーオンラウンジ

〔ホテル〕

ヨーロッパのスタジアムの多くは、企業向けに年間契約のVIPルームを持ち、個室で飲食等のサービスを受けることができるが、リコーアリーナの場合、その室を試合がない時にホテルの客室としても利用している。その切り替えは1室あたり、数分でできるように工夫され、また、フィールドに面していない部屋はホテル専用として、よりグレードの高い設備が整っている。

現在は80室があるが、コンベンション利用では常に不足するため、将来的に250室に増築する予定である。

〔カジノ〕

リコーアリーナには、イングランド最大のカジノがある。カジノはテナントの一つという位置づけであり、運営は別組織である。ポーカー大会やテレビゲームの大規模な大会などが開催され、多くの人を集めている。



VIPルームとして利用されるホテル客室



カジノの受付

4) 運営・今後の展望

リコーアリーナの収益構造は、ビジネス利用への施設の貸し出しが80%であり、サッカー利用は18%、1～2%がコンサートとなっている。ネーミングライツも収益の割合としては大きく、7年契約を結んでいる。

リコーアリーナの関係者に対するヒアリングでは、今後の展望として、「ホテル客席を増やし、コンベンション利用の充実を図ることを急いでおり、そのためにはサッカースタジアムとしての知名度よりもコンベンション施設としてのイメージを強めていく必要がある」とのことであった。

(4) フラム FC 対オーゼンセ BK(デンマーク) 観戦(クレイヴン・コテージ/イングランド)

1) クラブチームの概要

クレイヴン・コテージをホームとするフラム FC は、イングランドの多くのクラブと同じように 19 世紀に設立された歴史あるクラブであり、ビッグクラブの多いプレミアリーグとしては珍しく小規模なクラブである。

19 世紀に建築されたスタジアムを使い続けているクラブは、2 部・3 部リーグには多く存在するが、プレミアリーグではフラム FC のみである。

スタジアムはテムズ川沿いに立地し、周囲には大規模な住宅街が広がっており、どちらかという上品な観客が多い。



歴史を感じさせるスタジアムの外観

2) スタジアムの様子

a. 外観及び入退場ゲート

スタジアムは一部に戦争の空襲による改修などもあるが、基本的に 19 世紀当時の建物であり、外観もレンガ造りで周囲の街並みと一体感がある。

今回の視察においては、バックスタンドに入場したが、ゲートはリコーアリーナ同様、入場時は狭く絞ることで、セキュリティをやすくし、退場時には隣接する扉を開放し、素早く退場できるようになっている。

ゲートをくぐってすぐに廊下状の通路があり、ここに飲食売店やグッズ売り場、トイレ等が設置されている。これらの通路は収容人数と比較すると幅員が狭くて混雑し、移動に困難が生じていた。



ゲート



ゲートの先の廊下にある売店

b. 観客席

26,000 人の収容の観客席は、床やベンチが木造で歴史を感じさせ、観客席からは屋根を支える柱によって、フィールドの一部に死角が生じている点も歴史を感じさせる。

また、ゴール裏の観客席の奥行きは、メインスタンドやバックスタンドよりも深く設定され、観客数が多くなっている。ゴール裏には熱狂的なサポーターが集まり、熱心な応援を展開していた。



木造の観客席は味わいがある



屋根を支える柱が立っている

c. フィールドと観客席の距離

クレイヴン・コテージはフィールドと観客席が近く、タッチラインのすぐ外で芝生面が終わっており、すぐに弾性舗装が敷設してある。弾性舗装の個所は掘り下げられており、ボールボーイや警備員はこの下に立っている。

また、バックラインから観客席までの距離は1 m程度で、人が一人歩ける幅員である。こうした、観客席とフィールドの距離によって、臨場感が生まれ、迫力のあるプレーを楽しむことができる。

今回の視察はUEFAチャンピオンズリーグ戦のデンマークのクラブとの対戦であり、アウェイのサポーターは多くなかったが、その応援は熱狂的で、常に立ち上がって応援を続けていた。ホームサポーター席とアウェイサポーター席の間には鉄柵が設けられ、警備員が取り囲むなど、安全策が施されていた。



フィールドと観客席の間の掘り込まれた位置に立つ警備員



選手たちの熱いプレーを間近で見る

d. アプローチ道路

観戦後は、多くの観客と一緒に、地下鉄パットニーブリッジ駅まで1.5kmの距離を歩いたが、公園を通るルート、住宅地の脇を通るルート等、複数のコースがあり、また、距離があるため、歩く速度によって到着時間が分散し、2万人近い観客がいたにも関わらず、駅での混雑はそれほど大きくなかった。

(5) グラン・スタッド・メトロポール(建設中・フランス)

1) クラブチームの概要

リール・オランピック・スポルティング・クラブ・リール・メトロポールはフランスのトップリーグであるリーグ・アンで常に優勝争いを演じる強豪チームであり、UEFA チャンピオンズリーグでも上位に進出している。これからフランスだけではなくヨーロッパ全域で活躍していこうという、勢いのあるチームである。

2) スタジアム整備の経緯

LOSC リール・メトロポールは以前、グリモンプレ・ジョリをホームスタジアムとしていたが、老朽化により取り壊し、暫定的にスタジアム・ノール・リール・メトロポールを使用していた。

しかし、これも UEFA のスタジアム基準に合わなくなったため、5万人収容の新スタジアムとして、グラン・スタッド・メトロポールの整備が事業化された。



スタジアムの整備イメージ

3) 事業手法

整備にあたって、ヨーロッパ中のスタジアムを参考にし、スタジアムは多機能でなければならないという結論に至った。このため、計画当初から周辺の土地利用や顧客ニーズを徹底して調査し、様々な可能性を追求した結果、現在の計画となった。

スタジアム周辺には約 100 万人の人口があり、様々なスポーツイベントやコンサートの開催に対応することを検討しているが、これらはサッカー利用をおろそかにするという意味ではなく、サッカー利用が主体であることに変わりはない。

主な施設としてはホテルや住宅(アパート)があるが、近隣に大学があり、アパートのニーズは高いと想定している。また、ヨーロッパではショッピングセンターを併設している例が多く、本施設でも当初、検討した経緯があったが、近隣に地域最大のショッピングセンターがあったため途中で断念した。

事業手法の特徴として、PPP 方式を採用しているが、体育施設で採用したのは、ヨーロッパで最初の事例である。

資金計画は基本的に銀行からの借り入れであり、利用料収入と自主事業、市からの運営費によって、毎年返済していく。市との協定として、市は管理会社に年間 26 億円(通訳時に換算済)を運営費として支払い、管理会社は市に 6 億円を施設使用料として支払う契約となっている。クラブチームの利用料は管理会社には全く入ってこない契約となっていて、クラブチームと市が直接契約することになっている。

これは長い協定期間中にクラブチームの成績が落ちることも考えられるため、その分のリスクを市が負担した形となっている。

4) スタジアムの特徴

本スタジアムのコンセプトはあらゆる部分でヨーロッパNo.1を目指していることである。この中で、多機能性への一つの回答として、開閉式の屋根と、フィールドを2分割し、積み

第一章 計画条件の整理

重ねて収容することで、下の床面を出して3万人収容のアリーナとしても使えるが、この規模はバスケットボールやハンドボールなどが開催できる屋根付アリーナとしてはヨーロッパ最大であり、ヨーロッパNo.1であることが重要と考えている。

本来はヴェルティンス・アレナ(旧称アレナ・アウフシャルケ)のようにフィールドを外に出すことでよかったが、敷地内にこうした面積が確保できなかったため、分割収納方式を開発した。

LOSC リール・メトロポールは、これまで3.5~4万人の観客を集めていたが、今回、5万人収容のスタジアムを整備している。このことはフランス国内の試合だけではなく、ヨーロッパを舞台として活躍していくという意気込みの表れである。

5) 施設概要

外観は、スタジアム全体を包み込む丸みを帯びたルーバーが特徴である。スタジアムの外周には試合の際に飲食を提供する店舗が並ぶが、その空間を包み込み、雨が当たらないようにすると共に、ルーバーの隙間からは空気の循環ができるようになっている。この店舗にはすべての席から1分以内で到着できるよう計画されている。

また、3階席はすべてがVIP席であり、ボックス席に1,500人を収容できる。VIP収入は、スタジアムの重要な収入源であり、フランスの一般的なスタジアムでは7~8%であるが、本スタジアムにおいては15%を目指している。また、これとは別にビジネスシートがあり、5,500人を収容する。

また、本施設の特徴である分割積み重ね方式のフィールドは、試合が終わってから、分割・積み重ねの作業を終えるまでに6日間を要する。また、積み重ねたフィールドを隠すため、テキスタイルをカーテン状に屋根から吊り下げて使用する。



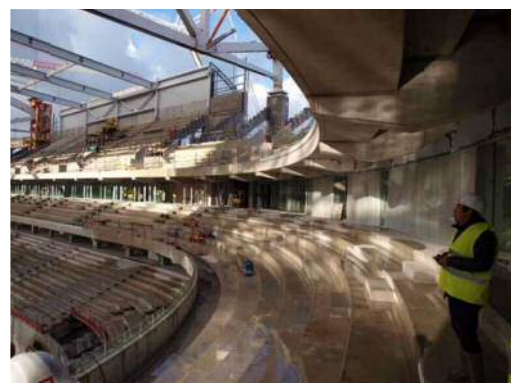
スタジアムを包むルーバー



ルーバーの周りは賑わいが生まれる



ルーバーの下のコンコースに売店がある



3階全周がVIPコーナーとなっている



芝生フィールドを積み重ねた断面



断面をテキスタイルで隠したイメージ

6) スタジアム整備を進めるにあたってのアドバイス

スタジアムディベロッパーELISA社の代表から、今後スタジアム整備を進めるにあたって、以下のアドバイスがあった。

- ▶ よいスタジアムを整備する上で最も大切なことは、よいクラブチームがあることである。地元から愛されるチームが存在し、地域の住民、誰からも支えられるような存在でなければならない。本スタジアムは、まだ完成していないが、模型を見るためだけに、すでに延べ6万人の市民が訪れている。
- ▶ サッカースタジアムは新しい時代の教会である。スタジアムはあたかも、現代的な聖堂のような存在であり、地域住民の心のよりどころとなるような存在でなければならない。
- ▶ スタジアムはその地域を象徴する存在でなければならない。そうでなければ人は集まらない。
- ▶ スタジアムは、オペラハウスのような存在で、その町に行った誰もが、「それだ！」とわかるような存在でなければならない。
- ▶ 沖縄県で整備する施設について、3.5万人収容のスタジアムと、4万人収容のスタジアムでは、意味や使い勝手がまったく異なる。いろいろな判断をし、どこかで決断をすることが大事である。

第一章 計画条件の整理

(6) ザンクト・ヤコブ・パーク (スイス)

1) クラブチームの概要

ザンクト・ヤコブ・パークをホームとする FC バーゼルは、スイスのトップリーグであるアックスポ・スーパーリーグにおいて、リーグ優勝 11 回を重ね、数々の国内タイトルを獲得する強豪チームである。また、UEFA チャンピオンズリーグでの活躍によって、世界的に有名なクラブである。

本拠地のあるバーゼルはフランス、ドイツ、スイスに囲まれた交通の要衝であり、工業の発達したスイス第 3 の都市であるが、どちらかというが目立たない存在であった。しかし、FC バーゼルの活躍によって、世界的な知名度が高まり、FC バーゼルは地域の誇りとして、地元から親しまれている。



スタジアムの外観

2) スタジアムの概要

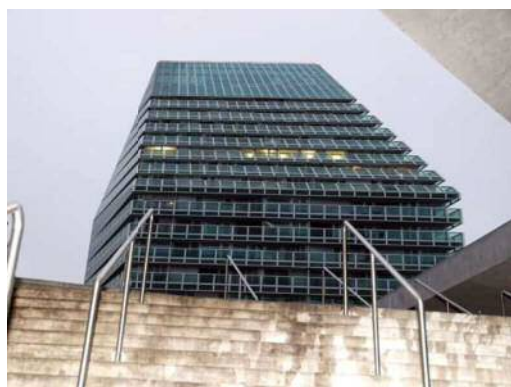
ザンクト・ヤコブ・パークは 1954 年にスイス・ワールドカップが開催された歴史あるスタジアムであったが、老朽化に伴い解体され、2001 年に同じ敷地に現在のスタジアムが整備された。施設は民間所有であり、地元の実業家など多くの出資によって建設され、スタジアム部分の整備コストは約 180 億円であった。

スタジアムは当初 31,500 人収容であったが、UEFA チャンピオンズリーグ 2008 の際に開催基準を満たしておらず、42,500 人収容へと改修された。

スタジアムの特徴としては、地下にショッピングセンター、スタジアムと隣接するように老人ホームやオフィスビルなどが整備され、その収益によってスタジアムの運営を成り立たせていることである。

また、スタジアムは、バーゼル市の運動公園内に位置しており、他に市の所有である市民体育館やアイスホッケー場、陸上競技場、テニスコートがあり、さらに公園内には、一部人工芝を含む 20 面のピッチもある。このうち 4 面はプロが練習に使用しており、自転車で 5 分程度の距離にあることから、スタジアムの中にクラブハウスの機能も併せ持っている。

また、このピッチを使用し、サッカーのエリートキャンプも実施している。



隣接するオフィスビル棟



ショッピングセンターの様子

3) 運営手法

スタジアムの所有は民間のバーリッジ社であり、運営はその子会社であるパーゼルユナイテッド社に委ねている。

サッカーだけの収入では施設を運営できないのが現状であり、収益はショッピングモールやオフィスのテナント料が全体の25～30%、老人ホームが18～22%、広告収入が10～15%、サッカーやVIPルームでのプライベートディナーの収入が25～30%となっている。

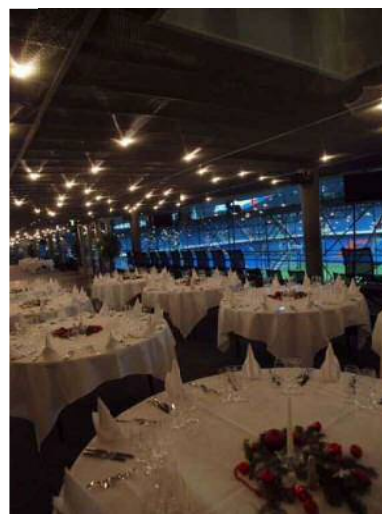
この中で、老人ホームについては、整備時には運営が懸念されていたが、近代的な設備の整った高級な施設であり、人気が高く、現在は多くのウェイティングリストがあって、なかなか入ることが出来ない。これは、サッカー好きの孫が訪れるなど、コミュニティがあるのが人気の秘密であると言われ、実際には室内から試合を観戦することはできないが、試合を見ることのできる特別室がある。

ショッピングセンターはフィールドの地下にあり、この地方で最大級のショッピングセンターである。レンタルオフィスも人気で、視察時には1室を除き満室であった。

試合の際にVIPルームとして使っている室は、試合がない時はプライベートなパーティーや会議などに貸し出され、常に予約が入っている。事例視察期間はクリスマスシーズンということもあり、毎日、多くのイベントが開催されていた。

また、広告収入については、ピッチ上にある可動式のものクラブ側の収入に、スタジアムに固定されているものはスタジアム側の収入となっている。

管理コストの中で、特に芝の管理費が大きいとのことであった。



クリスマスイベントの準備をする
VIP ルーム

4) スタジアム機能

収容人数や座席のグレード、観客席をほとんど覆う屋根等、サッカースタジアムとしての機能はヨーロッパでは標準的なスタジアムである。

収容人数については42,500人であるが、安全管理について警察・消防から指摘され、現在は36,000人しか収容できないことになっている。

これは、試合の際の観客席には避難ルートが設置されているが、1か所の出口から450名が避難し、全員が1～2分で避難できる容量が求められているが、これが不足するため、収容人数が制限されている。

一般客のエントランスについては、一度すべての観客を2階に上げた後、ゲートをくぐって、コンコースに導く動線となっている。このため、ゲートからフィールドの一部が見えるようになっており、入場の際の期待感を高める効果がある。

また、観客席最前列とフィールドの高さは同じであり、間を区切る柵も簡易である。

さらに、練習場が隣接する運動公園内にあるため、練習に必要なクラブハウス機能が付加されていることも本施設の特徴となっている。

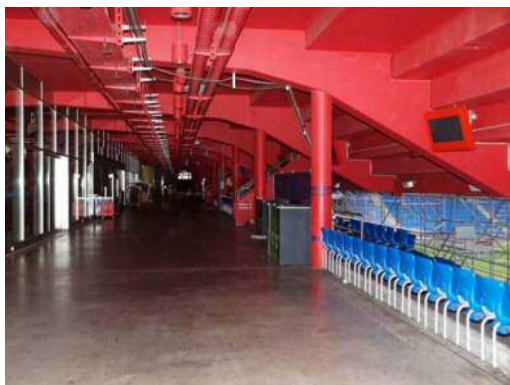
第一章 計画条件の整理



ゲートの先にはフィールドが見える



ゲートの構造



コンコースの様子



観客席とフィールドの境界

VIP については、他のヨーロッパのスタジアムと同じように地元企業が年間で契約し、ピュッフェ形式で飲食をしながら、試合を観戦できるネットワークゾーンと個室から試合を楽しむエリアに分けられている。個室は8人収容の部屋が4室、12人収容の部屋が2室、オーナー専用の部屋が1室ある。

これら個室のVIPルームの契約料は年間100万ユーロであり、これにはシャンパンや食事もついている。各ドアには買い取った企業のロゴを入れることができ、企業の接待等に利用されている。これら、VIPゾーンには専用の入口があり、直接VIPルームにアクセスできる。

チャンピオンズリーグの際は年間契約とは別料金であるが、契約する企業に優先購入権がある。

さらに、VIPルームは日常的にパーティー会場として貸し出されており、多くの利用者がいる。これらは用途に応じ、パーティションで区切ることができる。



VIPルーム(ネットワークエリア)



VIP室から試合観戦できる



外から見たVIP ルーム
2層に別れている



個室の様子
観戦席をガラスの外に出すように工事中

試合のある日は、運営スタッフやイベント出演者、警察、消防など、多くの関係者が来場し、朝から準備を進める。彼らが食事をとるスペースや休憩スペースも設定している。

また、本スタジアムは練習場にも近く、クラブハウスとしての機能も有している。洗濯室や温浴施設など、クラブハウスに必要な各施設がスタジアム内に完備されている。



スタッフのミーティングルーム



練習着を洗うランドリー

5) 施設管理者からの指摘事項

今回の事例調査の中で、我々は事業構造に関する質問をしたが、担当者より以下の点を強く念押しされた。

曰く、「複合施設がスタジアムを運営する上で重要な存在であることは間違いないが、一番重要なことは、FC バーゼルがそこに存在しているということであり、多くの人から愛される存在であるからこそ施設全体が成立しているということを忘れないでほしい。スイスで一番強く、ヨーロッパ選手権でも活躍している。FC バーゼルがなければ、バーゼルという町を知らない人も多いが、FC バーゼルがあって初めて、皆から知られる存在となり、FC バーゼルが活躍することで雇用も増えている。実際にはショッピングセンターと老人ホームがなければ、運営は成り立たないが、そのことだけは忘れないでほしい。」との指摘を受けた。